

○議員（14番 初村 久藏君） どうもありがとうございます。ぜひ、この問題は、今、昨年度、農協さんが2名ほど雇っておりますけど、農協の負担も結構あるとですよ。約、昨年の実績で六百数十万かかって、地元負担が約150万、あとの負担は、450万ぐらいは農協が負担してるわけですね。それだけしてやっぱり農協も生産者のためになろうとしておりますので、ぜひ、市も見過ごすわけにはいきませんけんが、よく検討をして今後はやってもらいたいと思います。

もう時間も大分経過しましたので、もう私の質問はこれで終わりたいと思います。どうか、市長の前向きな答弁をいただきまして、ありがとうございます。

なお、私も通告にはちょっと載せたんですけど、同僚議員が、上野議員が副市長問題はあした取り上げると思いますので、市長も、私も見て公務が大変だと思います。副市長も1人ではちょっと厳しいかなというような感じを持っておりますので、ぜひ今後は、上野議員のあした質問があると思いますので、そこはよろしく、もう上野議員に任せておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。健康には十分留意され、対馬市のかじ取り番として一生懸命に頑張ってもらいたいと思います。

以上で、私の質問を終わります。どうもありがとうございました。

○議長（堀江 政武君） これで、初村久藏君の質問は終わりました。

.....
○議長（堀江 政武君） 暫時休憩します。再開は2時からとします。

午後1時45分休憩

.....
午後1時59分再開

○議長（堀江 政武君） 再開します。

4番、船越洋一君。

○議員（4番 船越 洋一君） 清風会の船越洋一でございます。通告に従いまして、大きくは3点について市長にお伺いをいたします。

まず1点目は、木質バイオマス発電事業についてであります。島内の85%が山林である対馬で、木材を燃料とした木質バイオマス発電は、理にかなった事業だと思います。市長にも話が入っているとは思いますが、九州電力の関連会社である九電みらいエナジーが長崎県で初めて木質バイオマス発電に取り組もうとされております。この事業は、長崎県の離島、壱岐・五島では到底できない事業だと思います。離島というハンデである中で、企業誘致は大変困難な現状で、この事業を誘致することにより、間伐材、雑木等を有効に活用でき、林業の活性化、雇用の拡大、消費等にも経済効果が大きいと思いますが、市長の考えをお伺いをいたします。

次に、2点目であります。旧中対馬病院跡地利用についてであります。この件については、

前市長にも一般質問をした経緯がありますが、改めて比田勝市長にお伺いをいたします。対馬は、農林水産業である一次産業の発展なくして島の活性化は図れないと思います。しかし、現状では、いそ焼け、魚価の低迷、農林においては、イノシシ・鹿の被害等があり、厳しい状況下にあります。近年、真珠の価格が少しよくなってきたと聞いておりますが、経済状況は決して上向いているとは思いません。しかし、一方では、韓国からの観光客は、本年5月で9万人と言われております。昨年を上回る見通しであり、また、比田勝、厳原には、大型ホテルの建設が始まっており、今後、さらに国内外の観光客が増加するものと思われます。現状では、土産品店、免税店等がありますが、大型バスで観光客を受け入れる施設は皆無であります。そこで、旧中対馬病院跡地を利用し、一次産業である農・林・水産、真珠に至るまでの振興を図る上で、対馬の核となる道の駅的な拠点施設をつくるべきだと思いますが、市長の考えをお伺いをいたします。

次に、3点目ですが、これは3つに分けておりますので、まず第1点目ですが、韓国観光客誘客対策についてであります。1つ目は、釜山事務所の体制強化及び職員の給料改善についてであります。6月定例会後、会派で釜山事務所の現地調査で渡韓をいたしました。現地職員の説明を受け、副所長ほか1名が業務をしており、所長は市観光商工課長が兼務し、月に一度程度渡韓し、事務連絡を受けているとのことあります。昨年度は約21万人、本年5月までに9万人もの観光客が来島され、対馬の経済に大きく貢献しているものと思われます。これも釜山事務所の対応が大きな成果を上げていると思います。市長も、5年後は30万人、10年後は40万人を目標を立てておられますが、現在でも多忙を極めている状況であります。近年は、特に個人からの問い合わせが多く、1カ月に1,700件、パンレット送付は1日に50件から70件もあるそうであります。早急に事務所の体制強化を図るべきだと思います。また、副所長は、旧厳原町時代に、国際交流員として勤務しており、その後、釜山事務所を開設時に職員となり、対馬からいろいろなイベントの調整、通訳をと多忙を極めております。また、多忙を極めているにもかかわらず、給料は現地一般企業よりも低く、せめて釜山の企業並みに勤務年数に応じた給料に見直すべきだと思いますが、市長の答弁を伺います。

2つ目は、島内店舗のカード化の推進についてであります。韓国社会ではカード化が進んでおります。どこでもカードが使用できる状況であります。せっかく対馬に観光に来て、韓国のカードは使用できない状況であります。韓国で広く一般に使用されているカードは、シンハンカードであります。対馬市商工会会員約1,000店舗ぐらいあると思いますが、JCBカードは使用可能ですが、シンハンカードは使用できず、韓国観光客はカードでの買い物はできない状況であります。しかし、韓国のシンハンカードを使用できるカード会社が九州カードという会社で、島内では、現在3店舗が加盟しているとのことあります。このカードを使用できるように対馬島内で普及すれば、島内の商店で買い物ができ、消費の拡大に大きく貢献すると

思われます。一昨日、九州カードの役員の方が来島されて、今後の取り組みについてセミナーの開催を予定されているとお聞きをしておりますが、市としても、商工会と連携して積極的に取り組むべきだと思いますが、市長の考えを伺います。

3つ目は、今現在運休中の金浦～対馬便の就航についてであります。KEA——コリアエクスプレスエアという会社が、平成22年4月から平成25年7月まで約3年間、18人乗りプロペラ機でプログラムチャーター——計画運航で就航し、延べ1万人の利用客がっております。現在、ソウルから釜山経由で対馬に入るには約6時間程度かかり、ソウルからの観光客の誘客は不便な状況であります。今後、KEA——コリアエクスプレスエアでは、対馬～金浦間の提携便を50人乗りジェット機で就航する計画があるように聞いておりますが、市長は実現に向けて取り組む考えがあるかお伺いをいたします。

以上3点について、市長の答弁を求めます。

○議長（堀江 政武君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 船越議員の御質問にお答えいたします。

まず、1点目の木質バイオマス発電についてでございますが、太陽光発電や風力発電と違い、自然の状況により変動を受けず、燃料があれば、連続して発電が可能な質の高い電力でございます。平成25年度に初めて対馬市に木質バイオマス発電の提案が企業よりなされ、これまでに民間の林業事業体を構成員とする地域材倍増協議会において、安定した発電用の素材の供給の可能性の検討や、九州経済連合会主催による木質バイオマス発電に関するシンポジウムをこの対馬において3回開催していただき、対馬の林業についての情報の共有を図ってきたところでございます。

また、対馬市と振興局にプロジェクトチームを設置し、毎月合同会議を開催すると、バイオマス発電誘致における問題点等を洗い出しを行っているところでございます。

島の約9割が山林であるこの対馬で、森林の未利用材をエネルギーとして利用することは、森林林業の活性化による雇用の創出やエネルギー需給率の向上、さらには、森林が有する多面的機能の発揮など、さまざまな面に対馬の活性化につながる大変有益な取り組みであると考えておりますが、企業が示しております経営計画において、まだまだ問題点も多く、行政としての支援のあり方を県と一緒に引き続き検討していくこととしているところでございます。

次に、中対馬病院跡地の活用につきましてでございますが、所有者であります長崎県病院企業団を訪問し、長崎県病院企業団の意向を確認したところ、病院企業団としての活用計画はなく、今後、譲渡する方向で進められているとのことであり、譲渡の場合においても、第一に対馬市に投げかけを行うとのことで確認をしております。それを受け、対馬市といたしましても、雞知地区の中心地であり、重要な土地であると認識しておりまして、庁内で検討委員会を立ち上げ、活

用方法などの検討に入っているところでございます。

船越議員の質問の趣旨であります農林水産業の振興に向けた道の駅的な拠点施設の整備についてでございますが、対馬で生産・採取された農林水産物等の販路拡大はもとより、新しい観光拠点としての活用、島内供給体制の拠点などの新たな役割を担う拠点施設の整備については、私自身も必要であると考えております。現在、拠点施設整備については、一部の産業団体から提案もあっておりますが、施設の規模や内容、運営体制、ランニングコストの試算、財源等の確保、近隣事業者等への配慮など、いろいろな観点から検証・検討を行う必要があると思われまます。現段階では、まだ検討の域を脱しておりませんが、関係する産業団体、長崎県などとも協議しながら、検討を進めてまいりたいと考えております。

次に、3点目の韓国人観光客誘客対策についてでございますが、6月定例会におきまして、釜山事務所の業務内容の拡充について御質問をいただき、観光客誘致や交流事業の拡大、経済交流の推進を図るために、業務の拡充は不可欠であり、検討するとお答えをしたところでございます。

今回は、釜山事務所の体制強化、職員の待遇改善についての御質問でございますが、御存じのとおり、対馬釜山事務所は、一般財団法人対馬国際交流協会が運営しており、対馬市が運営費用を補助金として支出しているところでございます。

業務の内容は、国際交流に関する情報収集、韓国内での対馬宣伝事業、韓国からの観光客の入国支援、対馬からの視察研修への同行通訳などのほか、最近では、観光交流部門以外の木材や水産物の貿易に関する調査やPRイベントなどにも協力をしていただいております。

このような中、職員の給与につきましては、年齢や勤務年数、韓国内での物価上昇率を考慮し、韓国内の同様の職種の平均的な給与額に見合うように調整していると聞き及んでおりますが、対馬市のために昼夜休日を問わず、献身的に対応してくれております職員2人の待遇については、まだまだ改善の余地があると考えているところであります。国際交流協会とも協議の場を持ち、今後の検討課題としたいというふうに考えております。

また、体制の強化ということではありますが、事務所のあり方として、担当課であります文化交流・自然共生課長が国際交流協会の専務理事と釜山事務所長を兼務しております。今後、業務拡充を目指すに当たっては、対馬市職員の派遣だけでなく、民間の活力、例えば、日本企業の現地法人のOBなど、ビジネスの知識と経験、ネットワークを備えた人材を雇用することも、一つの方法ではないかと考えております。

また、パンフレットの送付など、簡単な業務であれば、臨時職員を雇うなどの方法もありますので、いろいろな可能性を考えた上で、今後、国際交流協会との十分な協議を重ねて判断したいというふうに考えております。

次に、4点目の島内のカードの推進でございますが、議員おっしゃられるように、韓国の

皆様は、クレジットカード利用が普及しており、通常の買い物をする際でも、クレジットカードによる決済をすることが日常的でありますことから、対馬に旅行で来る際も、現金を準備せず、クレジットカードを利用しようとする方が多いと聞いております。

しかしながら、対馬の事業所や商店では、クレジットカードの利用に対応していない店も多く、支払い時にトラブルになるケースが発生しておりました。

そのような中、平成23年度に、十八銀行様からクレジットカード端末機の無償設置の御提案をいただき、対馬市商工会様の御協力もあり、69台の端末機設置がされ、既存のものと合わせて140台から150台の端末機が設置されていると思います。これにより、JCB、VISA等を含めて7種類のカードの利用が可能になったところでございます。最近では、九州カード株式会社様が韓国クレジット業界最大のシンハンカード様と提携し、韓国ハウスカードの利用が可能となるよう普及活動が行われているようでございます。九州カードの社長様は、8月4日、私のところにも訪ねていただいて、お話しをさせていただいたところでございます。このクレジットカードの利用環境が整えば、韓国人観光客の買い物の利便性の増大と消費拡大につながるものと大いに期待しているところでございます。既に、数社におかれましては、自社努力により、韓国の方々なじみのクレジットカードなどが使用可能な端末機を導入されていると聞いております。未設置の事業者におかれましては、この機会に、カードの利用環境が整えられ、売り上げの増加を目指していただきたいと思っております。市といたしましても、商工会などと連携・協力し、観光客のニーズや動向などの情報を流していきたいというふうに思っておりますので、各事業所におかれましても、アンテナを張りめぐらし、そのような情報を的確に捉え、経営に役立てていただきたいと考えているところでございます。

最後に、国際航空路線につきましては、平成21年7月から、韓国のハンソ大学の傘下にありますコリアエクスプレスエアが20人乗りのビーチクラフト機で運航されていたものと存じております。当機は、韓国の金浦・大邱・釜山と対馬を結ぶ国際チャーター便として運航しておりましたが、平成25年7月から現在まで運休をしております。運航に当たりましては、韓国～対馬航空路で国際線としての運航実績を積み上げたいという意向があり、運航が開始されたものと承知しております。その後、チャーター便として運航が行われておりますが、国際航路との競合で集客が困難になったこと及び韓国国内での航空旅客の需要が高まったことから、航空機材の国内線への振りかえがあり、現在に至っているものと伺っているところでございます。

現在のところ、再開の話につきましては聞き及んでおりませんが、今後さらなる外国人観光客の受け入れに向け、航路のみならず、航空路を活用した誘客についても一つの手段であると考えておりますので、韓国のKEAを訪問して要請をしたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（堀江 政武君） 4番、船越洋一君。

○議員（4番 船越 洋一君） 市長、なかなかいい答弁をいただいているようでございますが、まず、この木質バイオマス発電ですね、これは、県それから市がいろいろタッチせないかん部分がたくさんあります。それで、そこら辺で難航してるのかなというような気持ちはするんですが、この事業は、どうしても対馬ではやらなきゃならん事業だと私は思うんですよ。というのは、対馬の山林を若返らせるには、木を伐採をして、また木を生やしてこんと若返りはないんですよ。そういう観点からしますと、例えば、市有林についても、市有林は、今、1,238ヘクタールあります。そのうち、人工林が627ヘクタール、それから、自然林が611ヘクタール。人工林のうち、人工林が627ヘクタールある中で、間伐材が済んでいるところ、森林は181ヘクタール、それから、まだ未実績のところは274ヘクタールある。未実績のところの間伐材をやると、この274ヘクタールというのは、まだまだ間伐材が出てくる可能性がある。それともう一つは、天然林の611ヘクタール、これもまだ伐採をしていかないかん。そうしますと、対馬市の財産である、せっかく森林に杉・ヒノキを植えとるわけですから、要は、一般の林業業者に、自分の山の間伐をしてくださいよ、してくださいよって言いながら、要は、市自体もまだまだこの間伐は終わってない状況なんですね。やっぱり間伐をしなきゃ、森は生き返っていきませんのでね。そうしますと、そういう観点からしても、この木質バイオマス発電っていうのは、これは対馬の中の自然林を今業者さんがたくさん入って今やっていっていただいておりますけども、これも利益、ものすごく収益が上がってるんですよ。今、チップ工場に木材を運んで、トン当たり5,500円から6,000円、それで生計を立てている林業業者はたくさんおられる。それと、定年退職をされた、あるいは、農業をされていて自分の山をお持ちの方が軽トラックで、例えば、自分の山を伐採してそこに木材を運び込むという人も、例えば、月に30トンから50トン運ぶ人もおられる。そうしますと、農業を傍らでしながら、自分の山でありますから資金はかかりません。そうしますと、そういう人たちが軽トラック1台で農業してますから、軽トラックはどこも持ってますよね。そういう人たちがやっぱり自分の山を切って自分で持っていけば、結構、16万、17万、二十何万っていう金が副収入が入ってくるわけ。こういうバイオマス発電をやることによって、チップ材の供給が必要になってくるわけですから、そういう人たちも、自分の山を切ってでもそういうことができるという可能性もあるんですね。そうすると、それが消費の拡大につながってきます。あるいは、また、このバイオマス発電事業、発電をやることになりますと、例えば、みらいエナジーさんがそこを開発するにしても、雇用の拡大もありますね。それから、チップ工場も、工場を拡大せないかんでしょう。そうすると、そこでもまた雇用が生まれます。そして、チップを切って、山を切って、林業業者ですか、そういう人たちもしっかり切って持っていかないかんわけですから、そうしますと、その人たちも雇用をふやしてこなあかん

すね。そうすると、雇用がそこで生まれてくるんですよ。生まれてきます。そういうことを全体をこう見回した中で、この事業を取り入れることによって、どう変わっていくのかというのは、市長、よく考えてみてください。これは決してね、対馬のためになる、私は事業だとこのように思いますので、そこら辺も一つ御答弁をいただけますか。

○議長（堀江 政武君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 船越議員おっしゃられるように、大変有益な事業であると私自身も考えております。

ただし、その中で、今現在課題となっておりますのが、要するに川上側ですね、間伐材・未利用材を売る側、そして川下、バイオマス発電事業者のほう、買う側ですね、ここの単価の差が今3,000円ぐらい差があるんですね。これらをどう埋めていくかといったことをちょっと今いろいろ、県や倍増事業体、そしていろんなところと検討を進めております。これを埋めていきませんことには、20年間この単価差を市が払うということになれば、かなりのこれ損失になりますし、果たして最後までその運営ができるかという問題もありますので、そこら辺をまず課題解決をしたいというふうに考えております。

それから、またあわせて、チップの運搬関係でおきましても、一応、まだ課題が残っております。それプラス、設置する場所ですね。これが今、地域の方々とはまだ詳細な面までは交渉はしてないということですが、ちょっと真珠関係の事業者の皆様からの理解がちょっと得にくだらうというようなことで、場所の検討も今現在行っているような状況でございます。

以上でございます。

○議長（堀江 政武君） 4番、船越洋一君。

○議員（4番 船越 洋一君） やはりチップ工場の近くにそういうのは建設しないと、運搬コストがかかりますよね。それは、やはり県の所有地であったり、市の所有地であったりするところが結構あるんじゃないかなと思うんですよ。協力できるところはしっかりと協力をしていくなから、誘致に向けて、今、市長の言われる運搬業者、産業の川下・川上の問題、そこら辺もしっかり詰めていかないかんことだとは思いますが、今、国境離島新法も成立をしましたね。そうすると、やっぱり離島だからこそやれる事業というのには、大きな着目点があるかと思うんです。ですから、そういうことも含めた中で、国のほうのそういうことも含めてやっぱり考えていく必要があるんじゃないかな。これをやると対馬はよくなっていくと、私はそう思いますんでね、一つそれはしっかりと取り組んでいただきたい、このように思います。

チップ工場っていいですか、木材、林業業者の人たちと話をしてみると、年間6万トンですか、ぐらいの木材は出せると。けども、それが20年となってくると、自分たちは生きとるか生きとらんかわからんと。しかし、やっぱり公社なり、森林組合なり、そういうところの企業としっ

かりした提携をしていけば、それも可能になるんじゃないかなというふうに思いますんでね、そういうことも含めた中で、ぜひこれは前向きに取り組んでいただきたいとこのように思います。

次が、中対馬病院跡ですね。これは、市長が言われましたように、私も企業長のところに、ちょっとお会いする機会がありましたんで行きました。今、市長が答弁されたとおり、企業長もそのようにお答えをしていただきました。これは、これも先ほどから言いますが、対馬の核となる施設というのは、どうしても1つ私は要と思うんですよ。これをやることによって、大型観光バスで入ってくる場所がない。今現在、農協さんは、国道382号線の関連で、あそこは立ち退きに入ってくると思うんですが、本来自体は立ち退きになりませんが、前はそっくり取られるはずなの。あそこももう古いから老朽化が進んでいます。やはりそういうことも含めた中で、農業・林業・水産、それから真珠、これを含めた対馬の産業を1つにまとめたやつをあそこにつくことによって、対馬の底力が私は出てくるんじゃないかなと思うんです。やっぱりそういう施設は、ぜひとも私は必要だと思います。いろいろな問題はあると思います。しかし、ここが5,300坪、1万七千幾らですか。広さがありますよね。土地が広いんですよ。そうしますと、1万7,593平米です。そうすると、坪数に直して約5,500坪。広いです。私も、ちょっと路線価格というのを調べてみたんです。そうしますと平米当たり1万3,700円、そうしますと2億4,000万ぐらいです。路線価格で買えばですよ。その2億4,000万ぐらいの金を例えば捻出をして、市が取得をして、そして、そういう産業団体が一括してそこで拠点的にやれるという施設を可能にしてやれば、対馬の産業は変わってくると私も思います。ですから、そこら辺も含めて考える必要が私はあると思うんですよ。いかがでしょうか。

○議長（堀江 政武君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） このことにつきましては、先ほども答弁いたしましたように、今現在、振興局のほうともプロジェクトチームをつくって、いろんな角度から検討をいたしております。そういった面で、決してだめっていうあれじゃなくて、できる方向っていいですか、前向きな検討を現在行っているところということでございます。

○議長（堀江 政武君） 4番、船越洋一君。

○議員（4番 船越 洋一君） これも大変重要なことでありますので、やはりこれには、国・県の力も借りないとやれる事業じゃないと思いますんで、しっかりそこら辺も組み立てていただいて、ぜひそれが実現できるように、ちょっと力を出してみてください。よろしくお願いします。

それから、3点目の韓国人観光客誘客対策についてであります。まず、釜山事務所の件です。この釜山事務所は、市長も先ほど言われましたように、大変多忙ですよ、本当に。夜も昼もないですよ。見るとね、やっぱかわいそうぐらいありますね。それかといって、決して給料はいいというわけじゃない。やっぱり職員を動かすには、給料はしっかりした企業並みの給料を出し

てやった中で、しっかり頑張ってくれということでやらんことには、やっぱり不満があれば、だんだん能力っちゃうのは落ちてくると思うんですよ。

体制強化ですけども、要は、対馬高校から韓国に留学してますよね。これは、釜慶大学、東亜大学、釜山外国語大学、ソウル市立大学、これ、平成14年から行ってるんですが、27年度までに合計39名、うち今現在在学してるのは17名、卒業した人は22名です。1名の方が上対馬のほうで観光関係のところで就職しとるということですが、せっかく韓国に留学をして語学を勉強して、韓国の経済も勉強して、そうしとる人たちが有効に対馬の宝として、有効に雇用はできないのかと。市のほうでどうして、そのところにあっせんをして、雇い入れる気があるのかなのかですね。そういうことも含めて、韓国の事務所の拡大、強化ですね、強化策、今はそういう人材も可能性があるんじゃないかなと思います。

それともう一つは、韓国の釜山事務所は、国際交流協会に補助金を出して運営がされてるわけですが、補助金というのは、足りない分を補い助けるという意味ですよ、補助金というのは、足りない分をじゃないんですよ。全部補助してるんですね。だから、そこらへんがちょっと私は違うんじゃないかなと思うんです。このままで、国際的な交流をしていく中で、このままでいいのかなというような感もしますよ。というのは、市がタッチをしない。ただ、所長が月に1回か2回かは行って、業務連絡とかそこら辺の打ち合わせをして、チェックをしよるということだけで済むんですかと。市の責任はどこにあるんですかと。お金は出してますよ。しかし、責任はどこにあるんですかって言われたときには、市がやっぱり責任とらないかなですよ。ですね。どうもそこら辺がアンバランスなところがあるなというふうな感がいたします。そこら辺も、やはり国際交流をやっていく、国際的に交易もして、経済交流をしていくということであれば、やはりそういうことも、しっかりとした立場に立ってやっていくべきじゃないかなと思います。

もう一つは、職員の給料ですが、この職員の給料っていうのは、国際交流協会の規約っていいですか、給料体系によって決まってると思うんですが、やはりそういう民間の企業と市の職員との格差っていうのはあると思うんですよ。だから、そこら辺の見直しをしっかりと、やっぱり市の職員並みの仕事を、それ以上のことをしよるわけですから、そういうこともしっかりと踏まえた中で、給料体系っていうのは考えてほしいとこのように思います。答弁願います。

○議長（堀江 政武君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） まず、国際交流の関係ですけども、現在、対馬高校の国際交流科を卒業されて、韓国へ留学された生徒さん、この人たちを対馬市のほうといたしましても採用しようとして、まず、ことしも今受験をたしかされていると思います。そして、以前にも1名採用されているところがございます。今後も、船越議員おっしゃられるように、こういったところの卒業生を釜山の事務所のほうに採用できたとするならば、それはそれで、韓国での勉強をされてある方

ですから、大変有益なことでないかなというふうに思います。

それともう1点、国際交流協会関係の補助金の件でございますけども、ここについては、やはり収益事業をする団体ではないということで、そこには、ある一定の補助金・助成をすることによつての活動ということになりますので、御理解をお願いしたいというふうに思います。

それと最後に、給与面でございますが、今現在、国際交流協会からも、待遇改善の要望も来ているところでございますので、韓国の同じようなところの給与体系、そしてまた、韓日の文化交流協会、韓国の観光公社、そういったところの広範囲にわたる給与体系をちょっと調査をしているところでございます。その上で、また、待遇改善、給料等の決定については行いたいというふうに考えております。

○議長（堀江 政武君） 4番、船越洋一君。

○議員（4番 船越 洋一君） お願いしときます。市長、お願いしときます。

次に、島内店舗のカードの推進であります。これは、やはり先ほど市長も答弁されましたけども、シンハンカードというのを使わないと、対馬に来て使えないんですよ。韓国の人に、先ほど市長も言われましたが、要は、韓国の中で一般的に使われてるのはシンハンカードが一番多いということなんです。それはたくさん皆さん持ってあるの。そのカードを持ってきても、例えば、十八銀行に行って金を下そうっていてもおろせないですね。私も十八銀行行きました。どうなんですかっていうと、おろせませんと。おろせるのは郵便局では下せますが、うちでは下せませんと。あれのところは為替をやってるんじゃないですかというけども、そこはだめですねと、言うことなんです。

しかし、ダメなもんはしょうがないんですが、やはり国際都市みたいな感じで今対馬ってのはなってますんでね、そこら辺もやはりできるような方向づけっていうのは今後必要じゃないかなと思います。それのきっかけとして、島内のカードの推進ですよ。これは、九州カードという会社が市長のここにも来られたということですが、これは10月ぐらいにセミナーを開催して、その住民の、その店舗の人たちの意見まで十分聞いた中で進めていきたいというような意向と聞いております。そこら辺は、やはり商工会もタイアップし、また市のほうもバックアップしてやりながら、それをやれば、今、韓国から来よる人が、例えば、日本円にかえてくる金が幾ら平均なのか。それで、使おうにも、使いたくてもカードが使えんから、それしかかえてきてないから使えませんということでは、消費の拡大にはつながっていかん。それをお金をつかっていただくには、そのシンハンカードというの使えるようにすることによって、消費が拡大が図れるわけですから、ぜひこれもしっかりと取り組んでほしいなと思います。どうでしょう。

○議長（堀江 政武君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） このシンハンカードの件につきましては、私も、九州カードの小石原社

長さんですかね、この方からもいろいろとお話しをお伺いいたしました。そういう中で、じゃあ、市がどういういった面で連携して助成ができるかなということ、いろいろ部内でも協議を重ねているところでございますが、要は、以前、23年度でしたか、十八銀行がカードを導入した際にも、端末機の設置については、やっぱり十八銀行のほうが無償で設置しているというような事例もあっておまして、そういう面に関しては、市としての助成は難しいだろうということで、今後で商工会と連携してそこら辺を広めていく必要があるなというふうに考えているところでございます。

そこで、今、先ほども話がありましたけども、この10月の中旬ごろ、インバウンドセミナーで、このシンハンカードの説明があるということで、この際に、端末機の設置についても説明をしたいということを聞いております。

以上でございます。

○議長（堀江 政武君） 4番、船越洋一君。

○議員（4番 船越 洋一君） ぜひこれもしっかりと進めていただきたいと思います。

次に、現在運休中の金浦～対馬便の就航についてであります。これは、今、釜山からのお客さんは、ソウルから釜山まで新幹線で来ます。これは3時間ぐらいかかりますよね。一般席ですと6,000円ぐらい、グリーン車で9,000円ぐらいだと思います。それから、釜山から対馬に船が来るわけですが、これは往復1万5,000円ぐらいかかると思う。そうしますと、ソウルから対馬まで来ると、最低6時間かかるんですね。比田勝にすると4時間半で来ると思うんですが、厳原ってなりますと6時間かかると。それぐらいかかってまで対馬に行かないかんのかというようなこともあろうかと思うんですが、この飛行機利用で就航させることによって、ソウルのお客さんが飛行機で1時間半ぐらいうれば来るわけですから、ぜひこれは就航に向けて、市長、取り組む必要があると私はあると思うんですが。長崎県では、長崎空港にソウルからの便を今度定期をさせましたよね。やはり、ほかの地域は、トップがみずから行って、交渉して、誘致してくるんですね。対馬でも、やっぱり市長がちょっと動いていただいて、そして、向こうの意向もしっかり聞いた中で、就航が可能になるように、これは努力してほしいなと私は思うんです。この会社は、今50人乗りのジェット機を飛ばそうかというような気配があるみたいなんです。そうしますと、50人乗りで来ると結構なお客さんが来るんですね。今までみたいにプログラムチャーターっていいですか、計画運航で来るんじゃないに、定期便として来れば、例えば、釜山から回ってきた人の帰り明けには飛行機でソウルに帰れるっていうような状況もあるも生まれてくると思う。そうすると物すごく便利がよくなります。そういう可能性もありますので、一つここら辺もしっかり取り組んでいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（堀江 政武君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 私も、先ほどもこのことにつきましては、韓国のほうを訪問して、ぜひ要請をしたいと答弁をいたしました。いろいろ情報を聞くところによりますと、機材も購入しているのではないかとというようなそういう情報もちよっと聞いておりますので、船越議員さんおっしゃられるように、ぜひ韓国に訪問して、この要請をしたいなというふうに思っております。ぜひ議会の皆様にも、御支援いただければなというふうに思います。よろしく願いいたします。

○議長（堀江 政武君） 4番、船越洋一君。

○議員（4番 船越 洋一君） この韓国からの飛行機便なんですけどね、これを入れると、本当、対馬っちゅうのは、私は変わってくると思うんですよ。今は、お客さんは船でしか来ませんが、港がもうばんばん満杯になってきますよね。けども、飛行機が入ってくるってなると全く違いますからね。

飛行機の使用料、空港の使用料っていうのが高いというような話も聞いたんです。私、空港事務所行きて、その使用料っていうのを聞いてきたんですが、使用料っていうのは安いんですね。私も初めて知りましたがね。今、先ほど言われたビーチクラフト機ですか、これで行くと、1回千六百何十円ぐらいでしょう、使用料は。それぐらい、えらい安いと思ったけども、それぐらいに安いです。そうしますと、それぐらいやったら向こうも喜んで飛んでくると思うんですよ。ぜひそこら辺も含めた中で、いろいろ私もこの3点、大きなところでは3点、市長にお伺いをしましたが、しっかりと取り組んでいただいて、対馬の活性化が生まれていくようによろしく願いをしたいと思います。

終わります。

○議長（堀江 政武君） これで、船越洋一君の質問は終わりました。

○議長（堀江 政武君） 以上で、予定の市政一般質問は終わりました。

あすは定刻より、本日に引き続き市政一般質問を行います。

本日はこれで散会とします。

お疲れさまでした。

午後2時50分散会
